

ふ句につけたり、

〔八雲御抄三上〕葦三上みだれ三上。玄ほれ三上。玄ほ三上。ながれ三上。よしとも云り。伊勢には濱を三上と云

あしつ三上の あしつ、 たまえのあしと云は玉枝也、非江、但寄江多詠也、あしがきはまぢか

しとも、思みだれてともいふ、はなほそきあしがきこえにといへり、是あしの花なり、なつか

りは、夏かりたるなり、一説雁といへり、又鶴といふ可咲、凡夏雁不可然之由、殊に匡房稱之、

〔宜禁本草五乾〕蘆筍 味小苦極冷、法如竹筍、堪食、反巴豆、蘆根甘寒、主消渴、客熱、止小便、利當堀取露

〔和漢三才圖會九十四本〕蘆蘆音 葦葦音 葭葭音 花名蓬蘽葭音 筍名蘆蘆音 和名阿之阿音

按蘆阿音之青阿音之和訓中略也、未長高二三尺、其葉大似馬篠、而莖葉皆蒼蒼、用可裹粽者、攝州難波之產

得名、

葦俗云弱ヨハレ之和訓中略也、蘆既成長四五尺至丈許、其葉亦老衰、纖莖、筠帶白色、似竹而弱也、山城鶉殿

之產得名、用之作筆、策之簧佳也、近頃武家用葦、乾枯作松明、燒乘馬之首毛燒訓、勝於破竹之松明、又

多作筆鞘、

葦筒中白皮曰葍葍音、甚輕薄者也、

葦花一名蓬蘽、說文云、葦花曰芳、抽條搖遠、生華而無葍、今人取以爲帚、曰芳帚是也、

琉球國有大葦、其周匝尺許、筠厚四五分、以爲器物、略

兼音 須一名兼、俗云、

本網似荻而細長、高數尺、中實者也、按兼多出於豫州、以編駕窓之簾甚美也、

〔重修本草綱目啓蒙十草〕蘆 ヒムログサ タマエグサ ナニハグサ サバレグサ ハマヲギ

以上古 歌名 アシ和名 ヨシ 一名蒲蘆環那代 華爾雅 蘆通雅 蘆同上 葦子草訓蒙

醉編 華爾雅 蘆通雅 蘆同上 葦子草訓蒙